

Happiness house ~可能性を広げる集いの場~

遠藤 滯児 (えんどう れいじ)
千葉県立東総工業高等学校 建設科

Happiness house ~可能性を広げる集いの場~

JR津田沼駅付近にある大学生用のシェアハウス。ここには様々な大学の生徒が住んでいる。日本大学生産工学部建築工学科2年のR(男)、同じ大学の数理情報工学科3年のK(男)、千葉工業大学建築都市環境学科2年のS(男)、デザイン工学科4年のM(女)、東邦大学理学部学部化学科2年のY(女)、生物学科3年のT(男)の6人と春からここに住み始めたRとKと同じ大学の建築工学科1年生のN(女)たち7人が仲良く生活しています。この家には、みんなと過ごせる空間がいくつもあります。玄関を開けると広いスペースに、吹き抜けを用いた開放的なリビング、その上の階には全員が一緒に立てる広いキッチンと食事スペース、大きな窓から差し込む暖かな日光に囲まれてできる畳のスペース、冬にはそこにこたつを設けてゆっくりできます。天気の良い日には中庭でBBQなどができ、屋上はもっと広いスペースになっているので、それぞれが友達を呼んで大勢でのBBQなども楽しめます。個室にはあえて机と椅子とロフトしが設けず、自然とみんなが同じ空間に集います。一階にはカフェと展示室が備えられているので、リフレッシュも簡単にできます。さらにこの家は駐輪場の上に建設されているので、駐輪場の敷地をあまり減らさずに済んでいます。なので、一階のカフェと展示室に、駐輪場を利用した一般の方もついでに立ち寄ることができます。ある日Rは学校から出されている設計の課題についてアイデアが浮かばず悩んでいました。その様子をみたみんなはRに話しかけ、アイデアを一緒に考えてくれることになりました。Rは自分では浮かばなかったアイデアと出会い、無事課題を完成させることができました。Rが課題を完成させることができたのは、この家のおかげです。同じ年代であまり気を使わないで話せる人達がいて、それぞれが違う分野を勉強していて、ストレスをあまり感じさせないいくつもの集う空間があったからです。Rだけでなく、他の誰かが悩んでいるときはみんなが助け合うことができる家。助けられることで様々な考えと出会い、自分の可能性を広げていくことのできる家。それが私の考える提案『集う家』になりました。



外観



2F内観



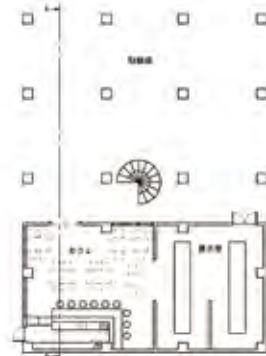
個室内観



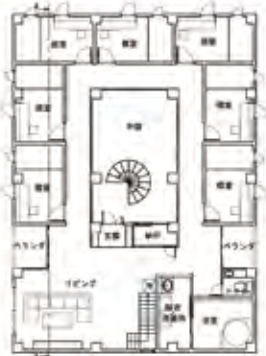
北立面図 S=1/100



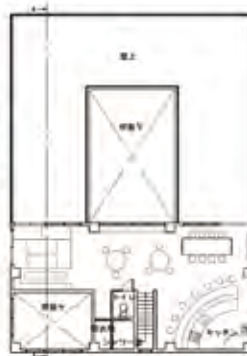
東立面図 S=1/100



1F平面図 S=1/100



2F平面図 S=1/100



3F平面図 S=1/100



A-A断面図 S=1/100

津田沼駅周辺には街中に学生達が集まりやすい場所があまりみられない。そこで、この春から大学生になる僕や学生のために、勉強や生活を助け合いながら共に住めるシェアハウスがあったらいいな。ここでは学生達が、学生達のための、集いの場となっていく。互いに切磋琢磨し、助け合い、色々な意見や考えに触れることで刺激になり、ひとりではなしえないことも実現できるかもしれない。可能性が広がり一歩前に進める僕たちの Happiness house である。

講評

シェアハウスもしくは学生寮の可能性に取り組んだ作品。入居者を技術系の大学生に絞り、そこで繰り広げられるであろう生活を具体的に想定し、大事な自己形成期に多くの仲間や興味を生み出すきっかけを作る場をうまく提供できている。必要諸室と配置をよく理解し、しっかり学んだ結果が作品に感じられる。そして、内向的になりがちな施設にカフェや展示室を設け社会との関わりを持つことに注目している点を評価したい。その上、駅近くで近隣に駐輪場もあり社会問題としての駐輪場不足を解決するだけでなく、カフェや展示室に立ち寄ってもらうアイデアは、今後の展開が楽しみである。機能ごとに分けた部屋やスペースではなく、壁のない個室やどこでもキッチンやいたるところリビング、ここでも工房など、人の行動によって空間が変化していく面白さについて考えていくと更に可能性を広げることができる。多くの考察が作者自身のより一層の可能性の広がりになることを多に期待します。

(審査委員：田端 友康)

